高等学校　外国語科（英語）　学習指導案

指導者　瀬戸口　茂久

日　　時　令和 7 年 12 月 05 日（金）　第 5 限　13：25～14：15
場　　所　HR 教室
学年・組　高等学校 I 年 2 組 41 人
題　　材　Lesson 7: “Serendipity”
Element English Communication I（KEIRINKAN）

目　　標　セレンディピティに関する英文を読み、①本文で紹介されている発見の中から自分が興味をもったものを一つ選び、選んだ理由とともに、自分の考えを適切に相手に説明することができる。また、②相手の話をよく聞き、関連のある質問をすることができる。

指導計画（全 8 時間）
第一次　辞書引き活動と文法　1 時間
第二次　教科書本文の内容・言語材料の理解　4.5 時間
第三次　原稿準備　0.5 時間
第四次　発表準備　1 時間（本時　7／8）
第五次　パフォーマンステスト　1 時間

授業について
英語の授業では、話すこと［やり取り］の力を伸ばすため、教師は英語を自然に使う雰囲気づくりやペアワークなどを工夫している。私はこれに加え、モノローグの質を高めることも重要と考える。まとまりある自己表現は、聞き手の興味を引き、対話へと発展する。これまでリテリング活動を取り入れ、スピーキングテストで評価してきたが、暗記中心になり意欲低下が見られることがあった。そこで、教科書内容を自分と関連付けて 1 分間話す活動を導入した。前回、シンガポールの学生との交流で同様の活動を試したところ、対話が活発になり好評であった。今回の授業はその 2 回目。自己関連付け、分量、伝達性を重視し、聞き手の質問も活動に取り入れる。

題　　目　対話へつながるモノローグ～モノローグの質を高める

本時の目標
1. 対話につながるような、まとまった分量の意見や考えを相手に伝えることができる
（思考力、判断力、表現力等）
2. 相手を意識して自分の意見や考えをしっかりと伝えることができる
（主体的に学習に取り組む態度等）
3. 相手の意見や考えを聞き、その内容に関連した質問をすることができる
（主体的に学習に取り組む態度／思考力、判断力、表現力等）

本時の評価規準（観点／方法）

1. まとまった分量の自分の意見や考えを、相手に分かりやすいことばで伝えている。
（思考・判断・表現／Chat GPT による原稿評価／パフォーマンステスト（後日））
2. 自分の意見や考えを工夫（明瞭さ・滑らかさ・巻き込みを意識）して伝えている。
（思考・判断・表現／パフォーマンステスト（後日））
3. 相手の意見や考えを聞いて、その内容に関連した質問をしている。
（思考力、判断力、表現力等／Google Form 回収・パフォーマンステスト（後日））
4. 上記 1～3 の項目について、意識的に発言しようとしている。
（主体的に学習に取り組む態度／観察・振り返りシート等）

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
１．　本時の目標を知る		
２．　本文の内容を振り返る	・口頭でのやり取りで前時までの内容を振り返る	・本文の要点を引き出す発問
３．　発表原稿の確認と校正 １）　必要な条件が含まれているか確認 ２）　Chat GPT に入力 ３）　原稿の校正	・条件を確認（PPT） ・Google Classroom で提示されているプロンプト*と原稿を入力 ・Chat GPT の提案に従い添削	・Chat GPT には、文章の校正（文法や言い回し）のみを指示しており、書き手が書いていないことを補足したり、語数を条件に合うように付け足したり（削ったり）しないように指示している。
４．　ペア練習（補助あり）	[設定]2 回目のシンガポールの生徒との交流授業の最後に、「読み物についての考えを共有する」という設定。 ・3 週間前の授業での気付きを共有 ・話し方の工夫や想定される質問について考える	・シンガポールの学生との交流を想起させ、その時どのような意識で話したかを再考させる。
５．　ペア練習（補助なし）	・相手を変えながら相互にインタビュー活動を行う（簡易な自己評価）×2	・回を追うごとに滑らかに、英語らしく、相手に伝わる話を意識させる。
６．　振り返り	・うまくできたところ、伸ばしたいところなどについて記述する	・今後の交流へ向けてモチベーションを高める。
７．　Google Form に元原稿、校正後の原稿、最も印象に残った話、その時自分がした質問等を入力	・パソコンで Google Form に入力	・教師の Chat GPT で元原稿がどの程度条件を満たしているか、聞いた話と関連のある質問をしているかを評価。

Lesson 7: “Serendipity” (4)

Goal:

① To express _____

② To listen _____

1. Review

2. Preparation

1) 原稿の校正（Revise your speech draft）

① Open Google Classroom
→パフォーマンステストへ向けて（１）→Open Google document→Check your draft（原稿）

② Open Chat GPT

③ Open Google Classroom

a. パフォーマンステストへ向けて（２）
「指令（プロンプト）をコピー」→「Chat GPT へ入力」

b. Copy your draft and past it into Chat GPT

2) Preparation for Pair work（①Compare→②Choose & Mark→③Rehearse）

３. Pair work (Part 1)

1) 設定：A friendship lesson with Singapore students

2) 全体の流れ

Dialogue between a Singapore student (S) and a Fuzoku student (F)

S: Which invention do you like better?
F: Give a speech (50-60 seconds).
S: Listen carefully to the speech and ask one question about the speech.
F: Give a short answer
S: Respond naturally

3) Practice with your partner　※うまくできなくても大丈夫！Do your best!

4) Mini Discussion: One thing you did well/ One thing you can improve.

４. Pair work (Part 2) ※さあ、本番です。少しずつうまくなろう！

1) Practice with your new partners

2) Self-evaluation

5. Reflection: One thing you did well/ One thing you want to improve

6. Submit your drafts in Google Form　※期末テスト後はパフォーマンステストです！

Evaluation Sheet

高Ⅰ（　　）No.（　　）　Name（　　）

※パートナーと用紙を交換しましょう。

※パートナーは、各項目について、◎、○、△、×をしてください。

1．スピーチ

A.　内容

	項目	（1 回目）	（2 回目）	（3 回目）
1	どちらが「好み」なのかはっきり述べていた。			
2	「好む理由」をしっかり述べていた。			
3	この課で学んだことを述べていた。			
4	スピーチの内容は理解しやすかった。			

B.　分量と話し方

	項目	（1 回目）	（2 回目）	（3 回目）
1	50～60 秒で述べられた。			
2	明瞭に述べていた（声の大きさ・発音）			
3	滑らかに述べていた（間が多すぎなかった）			
4	こちらを向いて述べていた（アイコンタクト）			

2．質問

	項目	（1 回目）	（2 回目）	（3 回目）
1	話した後に質問された。			
2	その質問はスピーチと関連していた。			

ポイント合計（○の数）			

3. Reflection

よかったところ・伸ばしたいところ・その他（簡単に）

---

4. Positive Comment from Your Partner … In English

↓名前を記入

Comment: _____（1 回目：by　　）

Comment: _____（2 回目：by　　）

Comment: _____（3 回目：by　　）

【参考】“Your reason was good because…”/ “I could hear you clearly.”/ “I liked your question.”

【Model speech】

I like sticky notes better because they are more connected to my life and I use them every day. I use them for labelling handouts. One set is for I3, another set is for I2, and so on. They are necessary and indispensable to me. I also use them to leave messages to my colleagues or family. I cannot imagine my life without sticky notes.

What I learned from the stories is that if we observe things around us more carefully, we can always find something interesting. If we can find interesting things throughout our life; we can enjoy our life. If we are lucky enough, we may become wealthy like Art Fry.

実践上の留意点

１．授業説明

本実践は、これまで継続してきたリテリング活動の成果と課題を踏まえ、新たなスピーキング活動を導入することを目的として行われた。リテリングはモノローグの質を高める活動として有効であったが、一部の生徒、特に英語表現に苦手意識を持つ生徒において、暗記中心に偏りがちの発表が見られた。また、活動のマンネリ化を避けたいという課題もあった。

そこで本実践のねらいは、教科書本文と生徒自身の経験や思考とを関連付けることで、暗記に依存しない主体的なモノローグ力を育成する点に置かれた。さらに、質の高い発話が聞き手の関心や質問を引き出し、対話の活性化につながることを最終目標とした。

前単元ではオノマトペを題材とし、生徒が自分の好きな表現を理由とともに発表する活動を実施した。特にシンガポールの生徒との交流授業において、生徒は伝達を重視しながら積極的に表現した(後日その内容をもとに約 1 分･100 語程度のスピーキングテスト実施)。

今回の実践は、前回の反省を踏まえ、教科書で紹介された人物の「その後」に関する記事を収集し、AI を活用して英語レベルを調整した約 200 語の教材を使用した。スピーキング課題は、記事を一つ選び、①記事に関する自分の考え、②本文と関連付けた学び、の二点を約 1 分で発表することとした。

また、「自作英文を自信をもって話せない」という課題に対応するため、AI による添削と原稿推敲を取り入れた。本時はテストに向けた準備段階と位置付け、原稿作成と発表練習を通してモノローグの質的向上を図った。

２．研究協議

研究協議では大きく 2 点が議論された。まず、スピーキングテストの発問が本文を読んだ感想を求めるにとどまり、内容理解やテーマとの関連が不十分であるという指摘である。

今回の活動は自己表現に重点を置いたため、問いが本文を深く読む活動へとつながっていなかった。実際、後日行われたスピーキングテストにおいても、発話の質に関して、生徒間の差が激しく、簡単な感想レベルの発話でとどまっているケースも見られた。

モノローグの質を高めるためには、より深い自己表現を達成する必要があり、本文理解をさらに深化させ、それを自身の経験や思考と結び付けるような問いを設計する必要がある。

次に、AI 添削に想定以上の時間を要したこと、また AI で整えた英文を自分のものにするまでの時間に大きな個人差がみられたことである。

英語力の低い生徒は修正箇所も多く、内容を十分に消化しきれないまま発表に臨み、その結果、「自信をもって話す」という本来の意図から外れてしまう場面も見られた。

総括として、発問の見直しとそれに伴う発話の質の向上、AI 活用の現実的運用が来年度の改善点として整理された。